





# 卒業おめでとう

～学び舎を巣立つみなさん～

まじめなことをゆかいに



山形県立米沢栄養大学  
健康栄養学科長 沼山 博

ご卒業おめでとうございます。昨年来の新型コロナウイルス禍で、皆さんの学生生活は思いもよらない展開になりましたね。今なお大変な生活が続いていますが、そのおかげで当たり前のように気づくこともできたのではないのでしょうか。マスクを取っておしゃべりしてはいけない、会食やコンパは避けること、は、フェイストゥフェイスで人と会話することの楽しさ、大切さを、オンライン授業は、集まって皆で学び合う、普段の授業の良さを。人間の素晴らしさ、どんな状況にあっても積極的な意味を見出せるころにあります。コロナ禍の今後はなかなか見通せませんが、社会へ羽ばたく皆さんに、隣の川西町出身の作家・井上ひさしさんの次の言葉を送りたいと思います。  
「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふか／ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」  
皆さんの活躍とご多幸を心よりお祈りいたします。

## 退任される先生より



7年間を振り返って  
山形県立米沢栄養大学  
健康栄養学部健康栄養学科  
教授 山田 英明

米沢栄養大学の開学時に赴任をいたしまして早7年の月日が経とうとしております。管理栄養士養成校での授業担当は初めてではなかったのですが、当時の学長から自己評価改善・SDFD委員長を受けてくれたといわれその責務は前任校でも担っていたので気が重かったことを思い出します。学生の授業評価や、教員の業績などに関わり、他の教員から煙たがれる存在の立場だからです。また自分自身を律して行かなければならず、気軽どころか真逆な立場になるからなのです。しかしながら本学の教職員の方々とはとても優しく接していただき、そのような思いは蹴してしまいました。しかし就任2年目に胸部大動脈瘤乖離を患い、入院手術をする羽目になり、結果からだの中にはステント、人工血管が入ったことで、気力が気に萎えてしまいました。それでも大学に居続けたことは本学の学生がとても優しく接してくれて、この職場であればまだまだ続けられるというところを思ったからです。そして最後の年にまたコロナウイルスという試験がやって来ました。従前通りの授業展開が出来ず、遠隔授業、遠隔授業の準備の追われるという1か月がありました。その後対面授業になっても2教室に学生を分けての授業展開ということでもたもた準備が必要になるなど最後の最後に試験を与えられたことは今になってはよい思い出になりました。  
学生の皆さんも大学に行けない、友達に会えないという試験もありました。ご家族のご協力の下、無事に春を迎えようとしております。卒業生の皆さんは新たな場所で、学生の皆さんはこれからまだまだ明るい希望をもつて勉強に励み、就活を進めていくことでしよう。私のこれからは終活に向けて人生を整理整頓していきたいと思えます。



## コロナ禍ですが。



山形県立米沢女子短期大学  
国語文学科長 佐々木 紀

ご卒業生の皆さん、保護者各位、ご卒業おめでとうございます。今年は前期が遠隔授業で、学生も教職員も困惑、後半は対面授業にこぎつけ、コロナシミュレーション指導が従来通りとなりましたが、顔半分がマスクのため、廊下ですれ違う時、アレアレ、などというところがありました。保護者各位におかれましても、在宅学習の生活、帰省の判断等、色々お気遣いお迷いになる点があったかと存じます。皆様がご協力があったので今日があるかと存じます。ありがとうございました。

それでも学内外のサークル他の活動、ゼミの行事のきなみ取りやめで、卒業生には、やはり不満の残る学生生活であり、進路に影響したコロナ不況の理不尽さも思いやられます。四月以降、皆さんの進路に幾分かでも明るさが差すことを、学科一同お祈り申しております。  
この世代全員が共有した歴史的体験を、いつか笑って語りあえる日がくると良いですね。

## 卒業おめでとう



山形県立米沢女子短期大学  
英語英文学科長 阿部 隆夫

人間の資質の中に「共感力」というものがあります。個人差、男女差があるものの、自分にとって得にならないような人助けや相談に親身になって応じている人々は、尊敬にも値することでしょう。今後は卒業、進学、就職だけではなく様々な人生の節目がこれからあります。その度に世の中では、個人間どこか世界規模で、生き残りだけでなく生活向上の為の競争が常に生じています。より良く生きようとする人々の人生には競争が常に付いてまわることでしょう。しかしその一方で潤滑剤になっているのが、この共感力です。共感力を更に強くしていきながら、皆さんの将来をより良い方向に進めていってほしいと思います。

## 卒業おめでとう



山形県立米沢女子短期大学  
日本史学科長 吉田 敬

皆さん、ご卒業おめでとうございます。短大での二年間はあつという間だったでしょう。

卒業を控えた大事な年に、新型コロナウイルスの感染が世界的な問題となりました。こうしたことがなければ、米短生活最後の年間を、サークル活動や就職、編入学など、もっと自由に活動できたことと思います。日本史学科でも「史学実習」の学外見学や、ゼミなどの行事など、思うように行かなかったのは残念です。歴史的には百年前のスペイン風邪、さらに遡れば奈良時代はじめの天然痘と推測される疫病の蔓延など、似たようなことが繰り返されてきました。そこから何を学ぶかは現在を生きる人間の問題です。

皆さんはこれから新たなステージに進まれます。歴史的な思考力を持った皆さんのさらなる活躍を祈念いたします。

## 社情で過ごした特別な二年間



山形県立米沢女子短期大学  
社会情報学科長 亀ヶ谷 雅彦

卒業おめでとう。この文章を書いていると、入学した頃の、研修旅行で訪れた川越の酒蔵レストランで、同揃って夕飯を食べた光景が、昨日のように思い出される。いつも日常で満ちていた二年生の時は、一転して、コロナ禍のせいで、二年生になってからは、社情の年中行事である花見もバーベキューもゼミ対抗球技大会も芋煮も、ゼミの打ち上げさえ叶わなかったことが口惜しい。

けれど、はからずも皆さんは、オンラインで授業や就活を体験した最初の世代となった。昔ながらの対面授業がどれほど優れていたか実感した一方で、進み始めたリモート革命は、もう後戻りしないだろう。社情で過ごした特別な二年間の経験を糧に、それぞれの持ち場で未来を作っていくべき。

東日本大震災が起った年、米短の卒業式は中止となったが、卒業生が呼びかけて、二年遅れで卒業祝賀会を開くことができた。そんな風に、皆さんとまた会える日が来るのを楽しみにしている。どうかお元気で。花道だけを歩いて下さい。

## 卒業生より

## 合格体験談



編入学  
山形大学人文学部  
グローバルスタディコース  
山形県立米沢女子短期大学  
英語英文学科 二年 塩生 晴菜

私は入学時から大学編入を希望していました。「異文化交流に興味があり、二年生になって目指す大学を絞って、本格的に興味ある分野の本の読書や、担当の先生からの学習指導、キャリアセンの面接練習、志望大学のリサーチ等に取り組みました。将来は学んだことを生かし、地域活性につながる、外国人に興味を持ってもらえる旅行企画に携わりたいと思います。編入は、自分の志望動機や学びたい分野を明確にし、合格したいという強い気持ちで挑むこと」が大切です。受験期間は先が見えなくて不安になります。編入したい方、今すぐ興味重ねが自信から始めてみましょう。自分を信じて頑張ってください。応援しています。



就職  
置賜広域行政事務組合  
山形県立米沢女子短期大学  
国語文学科 二年 鈴木 秋月

就職活動を始めたのは二年の八月位からでした。編入希望から就職に切り替え、履歴書の書き方すら分からない状態でしたが、キャリアセンの先生方から教えて頂き、遅れを取り戻すため様々なジャンルの企業に挑戦しました。履歴書は二つの企業に対して何枚も書いて練習し、その度にキャリアセンの先生に添削をして頂きました。面接は何社も受けることが練習であり、受ける毎に手応えを掴んでいきました。一番大切なのは「笑顔」と全ての質問に答える「対応力」です。

就活は自分一人で成功した訳ではありません。二か指導して下さいましたキャリアセンの先生方、どの様な結果でも私を信じ、励まし見守ってくれた家族、横山の支えがあり満足いく結果が出ました。これからは感謝の気持ちを忘れず、地域に貢献できる社会人を目指します。在学生の皆さんの進路を応援しています。



大学院  
山形県立米沢栄養大学  
健康栄養学部  
健康栄養学科 四年 土田 菜

私は入学当初から企業への就職を考えていました。大学院への進学も興味はあったものの、進学を選ぶ決め手が見つけられず、就職活動をいたしました。就職活動が進むうちに、私は本当に今卒業して企業で働きたいのかと疑問を抱き、栄養大の大学院への進学を決めました。

入試は出願書類をもとにした、自分の研究計画について面接が主でした。出願書類は先生方に添削していただき、面接は自分の考えを説明できるように、出願書類や先行研究を読んで対策していました。

私は、栄養大から栄養大の大学院への初の進学者ということで、先生方や周りの人にたくさん応援していただきました。その期待を真摯に受け止め、今後は病態や病期に適応可能となる経腸栄養剤の開発を目的とした基礎研究を行う予定です。



就職  
日東ベスト株式会社  
山形県立米沢栄養大学  
健康栄養学部  
健康栄養学科 四年 斉藤 星

私は、9月に内定をいただきました。就活をしていく上で常に心掛け、大切にしたいことは、「自分の思いをしっかりと伝えること」「妥協せずに満足いく結果が得られるまでやり遂げること」です。

今年度はコロナウイルスの影響によりオンライン面接や作文の提出など、例年とは異なる就活となりました。このコロナ禍の中無事に内定がいただけるとは、皆が同じ状況で頑張っているのだと考え、私も精一杯やることをやっています。

企業側でも就活生のことを考え、様々な対策を取り採用活動を行ってくれました。そのため、無理のない安全で安心な就活を行うことができました。様々な企業での面接を通しての企業も今の状況に負けずまいに日々頑張っていることがよくわかりました。私も就職してからはその一員となり、人々の笑顔や安心のために頑張りたいと思います。

様々な不安があると思いますが、自分の夢のために悔いのない活動を最後まで頑張ってください。

## 授業一コマ



調理学実習I



卒業制作作品展(社会情報学科小池ゼミ)



GOTO 卒業展

## 学生と理事等との懇談会

十月三十日(月)リモート開催  
栄大1年生、2年生及び四年生の計3名、短大各学科1名に加え、自治会長並びに全寮長の合わせて9名が、理事長をはじめ法人役員と懇談をしました。学生の声を受け止め、より良い大学づくりに活かしていくために平成二十一年度から開催しています。

今年度は、オンライン授業を初めとする新型コロナウイルス感染症対策についての意見交換が行われ、学生からは、感染環境の改善について要望が寄せられました。

## コロナ禍における学生支援の輪

●JAやがた中央会様よりお米の支援  
山形ブランド米「雪若丸」の新米を戴き、短大生には学食での提供、栄大生にはお米の配布を行いました。

●日本学生支援機構と天法人による支援  
修学の為の教材購入支援として12月、全学生に図書カードを配布しました。

## 教職員による食料支援

教職員に食料の寄付を呼びかけ、コロナの影響で、年末年始帰省をしない希望学生(約65名)へ食料支援を行いました。  
(学生より感想) ☆たくさんの食料ありがとうございました。☆食料がないとうそです。どれも実用的で助かります。米沢は雪がすごいで寒いので買い物に行くのが億劫になるので大変助かります。ご好意に感謝します。

